

中学校1年の英語教科書にみるライティング活動の比較研究

黒 澤 純 子

愛知東邦大学

中学校1年の英語教科書にみるライティング活動の比較研究

黒澤純子*

目次

1. はじめに
2. 先行研究と本稿における課題
3. 学習指導要領の中のライティング
4. 教科書の分析
5. 考察
6. おわりに：授業観察と今後の課題

1. はじめに

文部科学省（以下、文科省）は2013年12月、「英語教育改革実施計画」を発表し、その具体的な教育方針を「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」で示した（文部科学省，2013）。その中の「グローバル化に対応した新たな英語教育の目標・内容等（案）」では、小・中・高等学校を通じて「言語活動の内容（聞き取り、多読、速読、作文、発表、討論等）や量を増加」（文部科学省，2013）することを公示した。また英語力を測るものとして、「大学入試においても4技能を測定可能な英検」（文部科学省，2013）などの活用も挙げている。多くの中高生が受験する実用英語検定（以下、英検と記す）において従来は一次試験では読解（リーディング）とリスニングが、二次試験では、面接の形態をとったスピーキングが課されていた。しかし、その後2級では2016年の第一回検定から一次試験でライティングが導入され、2017年の第二回からは準2級と3級においても、ライティングが導入された。これらどちらの級も2級以上のライティングと共通なことは、ある質問に対して、「自分の考えとその理由」を2つ書くことである。3級では25～30語で、準2級では50～60語で、2級は80～100語で書くこと、と級が上がるにつれて内容の深い、説得力のある文を書くことが要求されている。

さらに、愛知県の公立高校入試においても、2017年以降の英語の問題にライティングが課されている。質問に対して自分の答えを選択し、その選択の理由を2文で述べる形式である。資格試験、入試で書く力が求められてきている状況の中、生徒たちが使用する教科書でどのようにライティングの学習をしていくのだろうか。

* 愛知東邦大学非常勤講師

本稿では、グローバル化に対応した新たな英語教育の目標に到達するための一つとして入試や検定試験でライティング力が課されていることに注目し、生徒たちが学ぶライティングの学習を、中学1年生が使用する検定教科書に記載されているその学習内容に沿って考えていく。中学1年生に限定した理由として、2020年からは小学校で英語が教科化されるが、それまでの外国語活動ではコミュニケーション能力の素地を養い（文部科学省，2008）ながらも、英語を書くことの学習をしていなかった生徒にとって、中学に入って書くことを要求されるのは大きな転換期だと考えるからである。

2. 先行研究と本稿における課題

長谷川（2016）は、英語の教科書の特徴づける要素として、言語材料、言語活動、題材を挙げている。中学校英語教科書についての先行研究は主に題材研究で、それらは大きく3つに分けられる。音声指導に焦点をあてた研究（上田・大塚，2010；加藤，2008）、語彙研究（甲斐，2004；松尾，2016）、文化的要素、及び異文化理解に関する研究（一言，1996；金田，2005；林，2010；藤井・川原・大西，2003）である。しかし、教科書における言語活動のライティングについての研究はまだ少ない。中学生が受験する各種試験においてライティングが重要な位置を占める中、本稿では教科書で扱われているライティングの学習に焦点をあてる。

本稿での課題は2つある。まず一つ目は、教科書ではどのような題材でライティングの学習が行なっているのか、小学校の外国語活動（英語）では基本的に書くことの活動をしてこなかった生徒たちがどのような過程でライティングに慣れ親しんでいくのかである。二つ目は、使用する教科書によってライティングの学習内容は異なっているのか。また、異なっている場合、教科書間でどれくらいの差があるのかである。学校では授業の時間数の制約もあり、教科書に載せられているすべてのライティングの学習を授業で取り上げていないかもしれない。しかし、前述した資格試験、入学試験においてライティングが要求されている今、ライティングの学習が必要であることは間違いない。本稿では教科書の学習内容を見ていき、前述した課題に答えた上で、今後のライティングに関する課題も考えたい。

3. 学習指導要領の中のライティング

指導の根幹となる学習指導要領ではどうなっているのか。文部科学省によって告示され教科の教育課程の編成をする際の基準となる学習指導要領に言及する。中学校学習指導要領の全部を改正する告示（以下、「新中学校学習指導要領」と記す）が文部科学大臣によって行なわれた。それにより、新中学校学習指導要領は平成33年（2021年）4月1日から全面実施される予定で（文部科学省，2017，a）、2020年度までは先行実施の期間である。

まず、2017年3月に出された新学習指導要領の中の「第9節 外国語」についての目標を確認

する。

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す」（文部科学省, 2017, b, p. 132）である。小学校から引き続き、中学校においてもコミュニケーションを図る資質や能力をつけることが目標となっていることがわかる。さらに中学校では教科としての外国語（英語）を学ぶため、筆記試験が課され、書くことが重要視される。本稿ではライティングについて考えるため、新学習指導要領の目標の中でも、ライティングに関連している事項を引用する。

(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。（文部科学省, 2017, b, p. 129）

外国語（英語）の知識を身につけ、実際のコミュニケーションで活用することを目標にし、その目標に近づくために「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」（やり取り）、「話すこと」（発表）、「書くこと」の5つの要素でそれぞれの技能を身につけることが要求されている。さらに、新学習指導要領中の「第2 各言語の目標及び内容等」における「書くこと」の項目では英語の目標がより具体的に記されている。

- ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。
- イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。
- ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

（文部科学省, 2017, b, p. 130、下線部は筆者による）

下線部に注目すると、関心のある事柄、事実や自分の考え、気持ち、考えたことや感じたこと、その理由などを正確に書くことが目標となっている。これらの目標を達成、あるいは目標に近づくための「内容」はどのようになっているのだろうか。新学習指導要領において、「内容」は〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力〕の2項目に細分化されている。

まず、〔知識及び技能〕の項目では、音声、符号、語、連語、慣用表現、文、文構造、文法事項（文部科学省, 2017, b, pp. 131-133）について詳しく学習内容が説明されている。つまり、正確に英語を書くための規則や文法に力点が置かれている。続いて、〔思考力、判断力、表現力〕の中の言語活動に関する事項の中の「書くこと」について見ていく。

- (ア) 趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動。
- (イ) 簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動。
- (ウ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。
- (エ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動。(文部科学省, 2017, b, pp. 134-135)

生徒たちが正確に単語を書き、英語の符号（ピリオド、コンマ、アポストロフィ、疑問符、感嘆符など）を正しく使用し、文法に沿った正しい文を書くことを習得する〔知識及び技能〕項目に加え、自分の考えや気持ちを整理しながら書くこと〔思考力、判断力、表現力〕の項目を習得することは容易な目標ではないことがわかる。小学校の外国語（英語）活動では極力書くことをしていなかった生徒たちが中学でどのように上記の目標に近づいていけるのだろうか。次項では、教科書の中で学習するライティングの活動を教科書別に見ていく。

4. 教科書の分析

公立中学で使用している検定教科書6種類：New Horizon English Course、New Crown English Series、Columbus 21 English Course、One World English Course、Sunshine English Course、Total English、(以下、各表のタイトルを除き順にNH、NC、CO、OW、SS、TE、と記す)の分析を行う。以下は、ライティングを学習するためにどのような具体的学習活動が盛り込まれているのかを教科書別にまとめたものである。

New Horizon English Course (東京書籍)

単元名	活動までの学習内容	活動のタイトル名、目標、具体的な学習、活動内容
①Presentation 1	Unit 4まで(be動詞、一般動詞、複数形、命令形、疑問詞:How many～?、Let's～.)の学習	自己紹介 (Unit 4までに学んだことを使って、3文以上で自己紹介をしよう。) Step1：自己紹介のモデル文を理解する。 Step2：自己紹介の内容を考える。 Jump：話したい内容を書いて自己紹介する。
②Daily Scene 3	Unit 7まで(疑問詞 Who～?、What～?、Which～、A or B?、三人称単数現在形)の学習	グリーティングカード(目的に合わせて、いろいろなカードを書くことができる。) 教科書には、誕生日カード、年賀状、母の日のカード、バレンタインカード、お見舞いのカードの例が掲載されている。
③Daily Scene 4	Unit 8まで(疑問詞 Where～?、Whose～?、所有代名詞、代名詞の目的格)の学習	ウェブサイト(自分の学校について、3文以上の英語で書くことができる。) Step1：モデル文の構成を学習する。 Step2：自分の学校について教科書に載っている表を完成していく。 Step3：自分の学校を紹介するウェブサイトを作る。

④Presentation 2	Unit 9まで(現在進行形、命令形)の学習	1日の生活 (Unit 9までに学んだことを使って、3文以上で一日の生活について発表しよう。) Step1: 一日の生活についてのモデル文を理解する。 Step2: 自分の一日の生活について発表したい項目を考える。 Step3: 自分の一日の生活について原稿を作り発表する。
⑤Daily Scene 7	Unit 11まで(助動詞can、疑問詞: When ~?, 一般動詞の過去形)の学習	絵はがき (旅先から絵はがきを3文以上の英語で書くことができる。) Step1: モデル文の構成を理解する。 Step2: 情報を整理する。 Step3: 絵はがきを書く。
⑥Presentation 3	Daily Scene 7の学習	思い出の行事 (Unit 11までに学んだことを使って、3文以上で思い出の行事について発表しよう。) Hop: 思い出の行事についてのモデル文を理解する。 Step: 自分の思い出の行事について考える。 Jump: 自分の思い出の行事について発表する。

New Crown English Series (三省堂)

単元名	活動までの学習内容	活動のタイトル名、目標、具体的な学習、活動内容
①Project 1	Lesson 3まで (be動詞、一般動詞、疑問詞 What ~?, Where ~?)の学習	自己紹介をしよう (クラスの友達に自分らしさが伝わる自己紹介をしよう。) Read: ALTの先生についての紹介でわかったことをメモする。 Listen: 先生の自己紹介を聞いて、話題になったこと、わかったことをメモする。 Write: 自分の紹介したい話題・伝えたいことを整理し、原稿を書く。 Speak: 自己紹介をする。
②Project 2	Lesson 6まで (複数形、命令形、疑問詞: How many ~?, Who ~?, Which ~, A or B?, Where ~?, When ~?, 三人称単数現在形、人称代名詞)の学習	友達にインタビューしよう (インタビューをして友達の紹介文を書こう。) Listen: インタビューを聞いてわかったことをメモする。 Write: メモをもとに、ラージの紹介文を書く (カッコをうめていく)。 Speak: Listenのインタビューを参考に、たくさんの友だちにインタビューする。 Write: インタビューした友達の紹介文を書く。
③付録	Project 2の学習後	*グリーティングカードを送ろう (感謝の気持ちや季節ごとの挨拶を、カードで表現してみよう。) サンキュウカード、パースデーカード、年賀状の例文が掲載されている。 *英語の手紙を書こう (手紙に関するいくつかの約束事に注意して、英語の手紙を書いてみよう) 封筒の表書き、手紙の書き方が掲載されている。
④Lesson 9中のUse- Writeのセクションとして	Lesson 9(助動詞can、現在進行形、一般動詞の過去形)の学習	学校生活について記事を書こう (1年間の学校生活の中で印象深かったできごとを、ウェブサイトの記事に書いて、海外の中学生に紹介しよう。) まず例として、「健」の紹介記事を学習する。その後、同様の手順で紹介記事を書く。 Step1: できごとを選ぶ。 Step2: 日本語でメモを作る。 Step3: 日本語でメモから項目を選んで、英語でメモを作る。 印象深かった学校生活について紹介記事を書く。

⑤Project 3	Lesson 9の学習後、 疑問文:Why~?の質問にBecause~.で答える学習	大切なものを紹介しよう（絵や写真を見せながら、あなたにとって大切なものをShow&Tellで紹介しよう。） Listen:「健」の発表を聞いて、話されたことをアイディアマップにチェックする。 Think:あなた自身のアイディアマップを作る。 Speak:大切なものについて友達と英語でインタビューし合う。 Write:大切なものを紹介する原稿を書く。
------------	---	---

Columbus 21 English Course (光村図書)

単元名	活動までの学習内容	活動のタイトル名、目標、具体的な学習、活動内容
①Unit 3中の You Can Do It!	Unit 3まで(be動詞、 疑問詞:What~?)の 学習	ティナの家族（身近な人のことを紹介する文を書くことができる。） 1. Tinaが書いたメモを読んで、()をうめていく。 名前以外は日本語で書く。 2. 身近な人を選んで、紹介する文を書く。
②Unit 4中の You Can Do It!	Unit 4まで(一般動 詞:一人称、二人称) の学習	クラスアンケート（友達が好きなことなどをたずね、その結果を書くことができる。） 1. クラスの友達10人に質問をして、結果を表にまとめる。 2. 自分がまとめた結果を書く。
③Go for It! 1	Unit 4までの学習	自己紹介をしよう（好きなことについて自己紹介文を書くことができる。） 1. 自己紹介のスピーチを聞き、聞き取ったことを下線部に記入する。 2. スピーチすることをアイディアマップや表に書き、内容を考える。（自分が好きなことの中から、何を紹介するかを決める。） 3. スピーチ原稿を書く。（好きなことに付け加える情報を2文以上書く。） 4. みんなの前でスピーチをする。
④Unit 7 : You Can Do It!	Unit 7まで(命令形、 数の尋ね方 How many~?、 疑問詞:Who~?, What~?, Where~?, Which~, A or B?、 三人称単数現在形、 人称代名詞)の学習	紹介文（身近な人を紹介する文を読もう。） 1. ある紹介文を読み、質問に答える。 2. あなたの一日について友達に説明する。
⑤Unit 8 : You Can Do It!	Unit 8まで(疑問詞: When~?、助動詞 can)の学習	練習場所を探そう（曜日や時間帯などを聞き取って、メモを取ることができる。） 1. 電話の問い合わせを聞き、その内容をメモする。 2. メモをまとめる。
⑥Unit 9 : You Can Do It!	Unit 9まで(現在進行 形、相手に許可を取 る表現)の学習	学校行事（学校行事について、書いて説明できる。） 1. メールの内容をまとめる。 2. マールの返事を書く。
⑦Go for It! 2	Unit 9までの学習後	大切な人のことを紹介しよう（写真や物を使って、大切な人やものを紹介する文を書くことができる。） 1. スピーチを聞き、聞き取ったスピーチの構成を確かめる。 2. スピーチすることを表にメモする。 3. スピーチ原稿を書く。（紹介する人が好きなことに付け加える情報を3文以上書く。） 4. みんなの前でスピーチをする。

⑧Unit 10 : Writing Fun	Unit 10まで(一般動詞の過去形)の学習	メッセージカードを送ろう (自分の気持ちをカードに書いて、相手に伝えてみよう。) 1. 例を参考に、カードに書く内容を確認する。 2. 例や表現例を参考に、身近な人にメッセージやひと言を書く。 3. 2で書いたことを使い、カードを作る。
⑨Unit 11 : You Can Do It!	Unit 11まで(一般動詞の過去形)の学習後	ポストカード (はがきを書いて、冬休みの出来事などを伝えることができる。) 1. 届いたはがきを読み、質問に答える。 2. 1のはがきを参考に、ALTの先生にはがきを書く。

One World English Course (教育出版)

単元名	活動までの学習内容	活動のタイトル名、目標、具体的な学習、活動内容
①Project 1	Lesson 3まで (be動詞、三人称単数現在形、疑問詞: What ~?) の学習	自己紹介をしよう (自己紹介をすることができる。) 1. 自己紹介の聴き取りをする。 2. 例にある自己紹介を読んでメモをとる。 3. 例にある自己紹介を参考にして、自分の自己紹介文を書く。 4. 自己紹介文を暗記して発表する。
②Project 2	Lesson 6まで (三人称単数現在形、人称代名詞、命令形、疑問詞: Who ~?, When ~?, Where ~?, Whose ~?, What time ~?, How many ~?, How long ~?) の学習	友だちをみんなに紹介しよう! 1. ある対話を聞き、メモをとる。 2. メモをもとに、1に出てきた人を紹介する。 3. ペアになり、質問をし合いメモをとる。 4. 3のメモを見ながら2のように発表する。 5. 4で発表したことを書く。
③ Lesson 7 の中 : Task	(助動詞can、疑問詞: How ~?, Which ~, A or B?) の学習	日本のマンガについて、あなたが考えたキャラクターを書いて、そのキャラクターについて説明をしよう。 1. マンガについての話を聞き取り、教科書に書かれているカードに記入し、言ってみる。 2. 自分で考えたキャラクターの説明を例にならって説明する。
④Project 3	Lesson 7まで (現在進行形、疑問: Why ~? の質問にBecause ~, で答える、一般動詞の過去形) の学習	好きなマンガやアニメなどについて発表しよう! (調査したことをまとめ、発表することができる。) 1. ある発表を聞き、グラフ内の空欄をうめる。 2. 例にあるテーマから選び、クラスメイトに調査する。 3. 例文を参考に、調査の結果をまとめる。 4. 調査の結果をグラフにしてグループ内で順番に発表しよう。

Sunshine English Course (開隆堂)

単元名	活動までの学習内容	活動のタイトル名、目標、具体的な学習、活動内容
①My Project 1	Program 4まで (be動詞: am, are、一般動詞: 一人称、二人称、疑問詞: What ~?, How many ~?, 複数形) の学習	自分のことを話そう 1. 2人のスピーチを聞く。スピーチの構成を考える。 2. 既習表現をふり返り、空欄をうめて文章を完成させ、原稿の準備をする。 3. 準備した内容をもとにして、原稿を作る。 4. 原稿を見ないで発表する。

②My Project 2	Program 8まで (be動詞: is, 疑問詞: Where～?, Who～?, When～?, What time～?, 三人称単数現在形, 人称代名詞、助動詞 can、手段としての How～?) の学習	人を紹介しよう 1. 2人のスピーチを聞く。紹介文の構成をマッピング (アイディアマップ) で分析する。 2. 本文の構成を考える。その際、マッピングを使う。 3. 準備した内容をもとにして、原稿を作る。 4. 原稿を見ないで発表する。
③Power-up : Writing	Program 11まで (現在進行形、一般動詞の過去形、疑問詞: Why～? の質問に Because～. で答える) の学習	日記 1. 「空想日記」を読む。 2. 日記に書くことを整理する。 3. 事実のあとに自分の感想も書く。 4. 5文程度の「空想日記」を書く。 5. 友だちの日記も読む。

Total English (学校図書)

単元名	活動までの学習内容	活動のタイトル名、目標、具体的な学習、活動内容
①Chapter 1 : Project	Lesson 3まで (一般動詞: 一人称、二人称、疑問詞: What～?, How many～?, be動詞: am, are, 複数形、命令形) の学習	自分のことを伝えよう (今までに習った表現を使って、自分のことを伝えましょう。) 1. ある自己紹介のスピーチを聞いて、聞き取れたことを書く。 2. 1を参考にして、自分のことについて伝えたいことを書き出す。 3. 2で書き出したことの中から、スピーチで伝えたい文を選んでまとめる。 4. 3に挨拶、しめくくりの言葉を加えて、グループのみんなの前で発表する。
②Chapter 2 : Project	Lesson 6まで (be動詞: is, 一般動詞: 三人称、疑問詞: What time～?, Where～?, Who～?, 人称代名詞) の学習	〇〇さんを紹介しよう (今までに習った表現を使って、家族や友達、先輩、あこがれの人などをみんなに紹介しましょう。) 1. 友人の紹介についてのスピーチを聞いて、聞き取れたことを書く。 2. 1を参考にして、紹介したい人のことについて書き出す。 3. 2で書いた文を整理し、発表用にまとめる。 4. 紹介したい人の写真または似顔絵を用意し、グループのみんなの前で発表する。
③Chapter 3 : Project	Lesson 8まで (疑問詞: When～?, Whose～?, Which～?, 助動詞 can、現在進行形) の学習	写真の説明をしよう (今までに習った表現を使って、写真の説明をしましょう。) 1. 使いたい写真を選ぶ。 2. 選んだ写真についてどんなことが言えるかを、例を参考に書く。 3. 2で書いた文を少し詳しく説明する。 4. 3で書いた文を整理し、選んだ写真と文章のレイアウトを工夫して完成させる。
④Chapter 4 : Project	Lesson 9まで (一般動詞の過去形) の学習	手紙を書こう (今までに習った表現を使って、お世話になった外国人の先生に英語で手紙を書きましょう。) 1. ALTの先生にあてて書いた手紙の例を読み、構成や内容を確認する。 2. 自分はどんなことを手紙に書くか、1の手紙を参考にして表に要点をまとめる。 3. 例を参考にして手紙を書く。 4. 結びと挨拶の言葉を書く。 5. 手紙を清書する。

⑤Book 1 : Project	Readingの学習後	Show & Tellをしよう（1年生で習った表現を使って、自分の好きなものや大切なものを紹介しましょう。） 1. 自分の好きなものを紹介するスピーチを聞く。 2. そのスピーチの原稿を読み、構成を確認する。 3. 原稿を参考にして、自分が紹介するものについて表に要点をまとめる。 4. 3でまとめた内容を、教科書に書いてある例を参考にし て書く。 5. 4で書いたことを発表用にまとめ、グループのみんなの 前でShow & Tellをする。 プラス：グループのメンバーのスピーチを聞いて、質問する。
----------------------	-------------	--

上記の表からわかることを述べる。大半の教科書が平均して4～6回のライティングの学習を取り入れている。ライティングの学習が一番多いのはCOとNCである。ライティングと一緒にリスニングとスピーキングの活動も同時に学習する形態で計9回にわたっている。しかし、各活動に費やしているページ数はほぼ1ページで収まっているため、ライティングのための紙面は各々、11ページ、10ページであった。

またSSでは、ライティングの学習が計3回で他の教科書に比べて回数は少ないが、Projectの①と②では4ページ、③では6ページがあてられている。ライティングに時間をかけることが求められている教科書である。ページ数から見ると、結果的には他の教科書よりライティングの学習量は多い。さらにSSの特徴的な点は、「知りたい情報を引き出そう」というセクションである。そこでは、それまでに学習したことを復習しながら話すことを目標にした活動になっている。6ページに渡る内容で、例文を参考にしながら最終的には「有名人のプロフィールを調べる」こと、先生にインタビューすることまで行なう。その土台になっているのはProjectの①で学習した、自分のことを話すために書いた原稿を元に発展学習の形をとっている。

どの教科書も学習する重要な文法事項は同じであるが、一点だけ相違があるのは理由を尋ねる質問とその応答（Why～?の質問に対してBecause～.で答える）の学習である。NC、OW、CO、SSの4つの教科書ではWhy～?の質問に対してBecause～.で答える学習をしている。例えば英検3級では、一次試験のライティング・セクションでは自分の意見に対して理由を述べる必要がある。さらに、2次試験では理由を尋ねる質問とその応答が出題される可能性が高いため、NHとTEを使用している生徒たちが1年生の間に英検3級を受験するならば、自習でその学習項目を補わなくてはいけないことがわかった。

5. 考察

以上の分析結果から研究課題に答えていく。一つ目の研究課題については、1年生の教科書のライティングの内容は主に自己紹介文、友だちの紹介、大切な人やものを紹介する文、学校生活や行事について記事を書く、日記、メッセージカードや手紙を書くなど、であった。1年生の段階ではまだ語彙数、学習する文法事項も少なく、英文を書く材料があっても実際に書く内容が限

られている。生徒にとって身近なことに関して既習の語彙を使い、文法事項を復習しながら簡単な文を書くという活動内容であった。また、それらの内容を学習するにあたり、いずれの教科書でもリスニングあるいはリーディングの活動で段階的に準備した後にライティング活動を行なっている。そして、最後にその活動内容をスピーキングの技能も身に付けていく形として発表する、という一連の過程を経ていることがわかった。

二つ目の研究課題については、ライティングの活動回数の多い少ないはあるが、ライティングに費やされている教科書のページ数にはさほど差がなく、学習内容も前項で述べたWhy～?の質問に対してBecause～.で答える学習以外は同じであった。すべての教科書において共通することは、3～4レッスン（又はユニット）で学んだことを確実に生徒たちがライティングできるように工夫されていることだった。生徒たちは一度学習した語彙や表現、文法事項をライティングの活動中で書くことで定着させ、友達の紹介、メッセージカードや手紙を書く活動では「相手を想定して何かを書くということを体験」（古家, 2003, p. 70）していく内容になっている。教科書にあるライティング活動を順に学んでいくことで、少しずつライティングの力をつけていくように考えられていることがわかった。しかし、学校の裁量により、ライティングの学習項目の取捨選択を行うことが考えられる。授業時間数との関係で、生徒たちが授業内にライティングに取り組む時間が十分に確保できないことが推察できる。

公立中学校での英語の授業時間数は、1年生では年間140時間（授業時間は50分）である（文部科学省, 2017, c）。教科書では凡そ11～12レッスン（教科書によってはユニット）の内容を学習する。1レッスンにはほぼどの教科書にも3つのパートがあり、そのパートごとに新しい学習項目がある。授業2時間で1パートずつを終了させていくと、1年で教科書のレッスンを終了することは可能である。しかし、教科書を見るとレッスンとレッスンの間には、ライティングの他にも日常会話などを話すことを練習するための活動、発音記号の学習、英語の歌、レッスン外の物語など多くの学習活動が盛り込まれている。それらすべての活動を授業時間内で行うことは難しいと思われる。法律によって使用義務が課せられている教科書であるが、「教科書で」何を学ばせるのかを明確にし、その活用方法が教師に委ねられているということでもある。

6. おわりに：授業観察と今後の課題

ある公立の中学1年の授業を参観する機会があった。彼らは小学校ではライティングが正式に位置づけられていない外国語（英語）活動として英語を学んできた生徒たちである。授業は英語での挨拶、日付、曜日の確認から始まる。生徒たちは予習ノートを作成している。先生は学習するレッスンの単語の意味確認を生徒と共に行き、基本文の説明と本文の内容確認は生徒を当てながら一文ずつ英文の訳を確認して進めていく。生徒たちは各自予習ノートの修正などを行なう。次に、文法内容を確認するための補助プリントの答え合わせをする。実にスピーディで無駄なく授業が進む。授業時間の最後には、大きなカードを先生が頭上に掲げ、その日に学習した新出の

単語や熟語の確認をする。まず単語、熟語のカードを見せて、生徒たちに一斉に意味を答えさせる。これをふた回り行い、次にカードの日本語の面を生徒たちに見せ、単語や熟語の意味を答えさせる。日本語から英語で答える時は全体的に生徒たちの声にばらつきがあったものの、ほぼすべてのカードで正解だった。繰り返し声に出し単語や本文を音読すること、カードによる仕上げで一つのパートを締めくくる授業であった。この授業では特に独立したライティング活動にあたるものはなかったが、生徒たちは家庭での予習ノートの作成、授業の中でのそのノートの修正や補助プリントでの活動でライティング活動の一翼を担う作業が組み込まれていたと考えられる。

50分間全く無駄のない、生徒たちの関心を引きつけていく授業であった。先生は生徒たちが理解できるように、また知的好奇心を高めるための様々な工夫をしている。ライティング活動が入る授業ではどのくらいの時間を使うことができるのだろうか。前頁で述べた授業時間数を考えると、1時間をライティングだけに時間を費やすのは難しいと推察する。ライティングの宿題が出ることもあるだろう。英語で何かを書くことは生徒たちにとって容易なことではないはずである。学期、学年が進むにつれ、生徒たち間の理解度の差も出てくる中、重要なことは、すべてを学校任せにするのではなく、家庭においても子どもの学習内容を把握し、着実に授業内容を身につけられる学習のための環境作りをしてあげることが必要である。

本稿では新学習指導要領を参考にした上で、基本的に小学校では英語を書くことをしてこなかった中学1年の生徒たちが、どのようにライティングの学習をするのかを教科書の内容から確認した。今後の課題は、限られた授業時間の中で実際に行なったライティングに関する活動の実態を確認することである。教科書に配列された活動内容をどれくらいの時間をかけて、どのような形で行なったのか、またそれらの学習活動は学校によって違いがあるのかについて調査を行うことが必要だと考える。また、生徒たちの学年が上がるにつれてライティングの学習内容がどれくらい複雑になっていくのかを分析することも重要だと考える。

引用文献

- 一言哲也（1996）「中学校英語教科書に見る文化材料の分析」『常葉学園短期大学紀要』(27), 47-66.
- 上田洋子・大塚朝美（2010）「発音と音声のしぐみに焦点をあてた中学校英語教科書分析：インプットの基礎を考察する」『大阪女学院大学紀要』7, 15-32.
- 甲斐順（2004）「中学校英語教科書比較研究—語彙の頻度分析を通じて」『言語表現研究』20, 71-85.
- 加藤みち子（2008）「中学校英語教科書に見る音声指導の扱われ方」『岩手大学英語教育論集』10, 49-65.
- 金田尚子（2005）「日本の中学校英語教科書にみる異文化理解：題材の観点からの教科書分析」『英語英米文学研究』33, 129-149.
- 長谷川淳一（2016）「中学校英語教科書における題材の取扱い」『言語文化研究』7, 29-43.
- 林千賀（2010）「日本の中学校英語教科書分析—異文化間コミュニケーション能力育成の観点から」『成蹊人文研究』18, 43-52.
- 藤井浩美・川原盛也・大西友一郎（2003）「中学校英語教科書における文化題材の特徴—異文化理解の観点から」『四国英語教育学会紀要』23, 21-29.

- 古家貴雄 (2003) 「中学校における英語ライティング指導の現実性について『山梨大学教育人間科学部紀要』5 (1), 69-76.
- 松尾眞志 (2016) 「中学校英語教科書と語彙リスト」『中部地区英語教育学会紀要』45, 69-74.
- 文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領』東京：東京書籍
- 文部科学省 (2013) 「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/12/_icsFiles/afiedfile/2013/12/17/1342458_01_1.pdf
- 文部科学省 (2017, a) 「今後の学習指導要領改訂スケジュール」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/_icsFiles/afiedfile/2016/08/29/1376580_3.pdf
- 文部科学省 (2017, b) 『中学校学習指導要領』
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2017/06/21/1384661_5.pdf
- 文部科学省 (2017, c) 「授業時数等の教育課程の基本的枠組み」
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2017/05/12/1384661_1_1.pdf

参考資料

- 笠島準一他 (2017) *New Horizon English Course 1* 東京：東京書籍
- 東後勝明他 (2017) *Columbus 21 English Course 1* 東京：光村図書
- 根岸雅史他 (2017) *New Crown English Series 1* 東京：三省堂
- 松本茂他 (2017) *One World English Course 1* 東京：教育出版
- 松畑熙一他 (2017) *Sunshine English Course 1* 東京：開隆堂
- 矢田裕士・吉田研作他 (2017) *Total English 1* 東京：学校図書

受理日 平成30年3月22日